フランクフルト日本人国際学校・音楽科通信

♪　ぽこ　あ　ぽこ　♪

♪２０２４年度　poco a poco ♪

Nr. ２０　２０２５年２月１２日（水）　文責：プファイル・辰巳

季節は飛ぶように・・

節分、立春と季節は飛ぶように過ぎ、日本の建国記念日も昨日終わりました。１４日はバレンタインデー。そうすると２月は半分終わってしまいます。１０週間あった３学期も残すところ約４週間。年末以上に慌ただしい気持ちになる学年末ですが、一日一日を大切に、そして誠実な気持ちで丁寧に過ごしたいと思う今日この頃です。

３学期ミニコンサート　（小学部１～４年生の部）

申し込み締め切りは明日　２月１３日（木）です！

出演を考えている人で、まだ申し込み用紙を提出していない人は、明日の放課後までに忘れずに出してくださいね。

音楽こぼれ話　＜音楽～音学～音が苦！？　①＞

小・中学校の教科に何故「音楽科」があり、義務教育の中で誰もが音楽を学ばなければならないのでしょうか。これは大学時代からの私自身の研究課題です。

健康のためにスポーツは不可欠です。それだけではないと思いますが、体育科の存在意義は明らかです。読み書きや計算ができなければ、日常生活で即、不便を感じることになるでしょう。国語科や数学科の存在意義も分かりやすいです。外国語科もグローバルな世の中では存在意義が大きいです。

では、音楽科はというと・・・？　歌が少々調子はずれでも、ピアノやリコーダーなどの楽器の演奏ができなくても、日常生活の中で特に困るということはないでしょう。バッハやモーツァルト、ベートーヴェンの音楽について知らなくても生きていけます。

では、そんな音楽を、なぜ学校で学ばなければならないのでしょうか。

よく言われることは、「教養として知っておいた方がよい。」「生活を楽しく豊かにするため。」などです。みなさんは、どうお考えになりますか。

ちなみに小・中学校の音楽科教科目標を下記に抜き書きしてみます。

＜小学校音楽科の目標＞

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

＜中学校音楽科の目標＞

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かにかかわる資質を育成する。

小学校では音楽活動を通して豊かな情操（美しいもの、すぐれたものに接して感動する豊かな心）を養うことが目標とされ、中学校では、音楽文化とかかわっていく資質を育成することが目標とされています。

目指していくべき道は見えてきますが、「何故」という疑問は残ります。もちろん生活は何につけても「豊か」な方がいいので、音楽だけではなく芸術全般に対する感性や情操・資質があるにこしたことはないことは分かるのですが。音楽科の存在意義はそれだけなのかなというのが、自分が音楽と向き合う中で、ずっとずっと考え続けてきた課題でした。次回は、この課題について自分なりに出した意見を、述べさせていただければと思っています。

ほんのちょっとだけ　**演奏会情報**

３月７日（金）　アルテオーパー　大ホールにて
２０時から　　パリ・フィルハーモニー・オーケストラの演奏
ラヴェル　「マ　メール　ロワ」
ストラヴィンスキー　バレエ組曲「ペトルーシュカ」
ムソルグスキー　「展覧会の絵」